

令和6年度 こども園評価書

堺市立津久野こども園

教育・保育理念 ・自分も友だちも大切に作る心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成
園の重点項目 ・一人一人の人権を尊重した関わりをすることで、子どもたちが自分も人も大切に思い、主体的に環境に関わっていける基盤を育てる

重点目標	・体をのびのびと動かし、しなやかな体をつくる ・人との関わりの中で、学びあい、育ちあう関係をつくる ・自然に触れる体験を通して、生命の不思議さや尊さに気づく ・主体的に遊びこむ活動を保障し、学びに向かう芽を育てる ・保護者や地域の方と連携し、ともに子育てをする ・幼稚園、小学校、中学校と連携し、学びと育ちをつなぐ ・職員の資質向上をめざす
-------------	---

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	評価	自己評価	評価	こども園評価
体をのびのびと動かし、しなやかな体をつくる	アートヨガ、リズム運動など全身運動を活発にし、しなやかな体づくり、支持力を高める体づくりをする。	- こどもの発達過程に応じ、個人差に配慮しながら、発達を保障する。 - 教育・保育中の事故防止のため、園内外の環境を常に整備するとともに安全教育を行う	A B	それぞれの年齢で年間を通して、しっかりと体をつかったあそびや取り組みをおこない、体力・支持力がついた。一方で受診の怪我が多く職員間での振り返りや、こどもたちとルール等を確認するようにしてきた。	A	個々の発達状況に応じたあそびや運動を取り入れ工夫した体づくりができていていると思います。運動会では生き生き取り組む姿が印象的でした。
人との関わりの中で、学びあい、育ちあう関係をつくる	異年齢交流や友だちとの関わりの中で互いに刺激を受けたり、自信がつく取り組みを行う。	- さまざまな経験を通して協調性や思いやりの気持ちを育てる。 - お互いのことを認め合い育ちあう関係づくりを行う - 異年齢交流を積極的に行い、憧れの気持ちやいたわりの心が育まれるように取り組みを行う	A A A	保育教諭が仲立ちとなり、友だちと関わっていけるようにしたり、友だちの気持ちや良いところに気付いたりできるようにしてきた。異年齢での散歩やリズム、ふれあいあそびを積極的におこなったり、週1回夕方に3～5歳児が交流する機会をつくることができ、より異年齢交流を深めることができた。	A	異年齢交流は大切な取り組みだと思っています。各年齢においてお互いを思いやり、認め合う姿がみられ良い育ちにつながっています。
自然に触れる体験を通して、生命の不思議さや尊さに気づく	近隣の公園や土手に散歩に出かけ自然に触れたり、プランターでの菜園活動や昆虫を飼育するなど命の大切さを感じる活動をする。	- 自然とのふれあいや実体験を大切にし、生活や遊びの中での学びを保障する - 園児の意欲や探求心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にする - 遊びの中での成功体験や失敗体験から集中力や粘り強さを育てる	A A B	園庭や散歩先で小さな虫や鳥、魚を見たり自然物や草花に触れたり、季節の移り変わりに気付いたり、自然に興味・関心がもてるようにしてきた。制作やごっこあそびにもつなげた。菜園活動では水やりをしながら野菜の生長を感じ、収穫したものをクッキングや給食で食べる経験を通して食への意欲を高めることができた。	A	自然とのふれあいや栽培活動を通してこどもたちの意欲や生き物への思いを高めることができています。この時期とても大切な取り組みだと思っています。
主体的に遊びこむ活動を保障し、学びに向かう芽を育てる	自立心を育て、他の幼児と関わりながら、主体的な活動を展開する。 子どもの興味や関心、発達、季節に応じた環境の中、遊びの楽しさを味わえるようにする。	- 保育教諭との温かいふれあいを通して愛着関係を育み意欲的に生きていく力につなげる - 園児の行動を温かく見守りながら思いを受けとめ自尊感情を育てる。 「主体的・対話的・深い学び」を実現する実践を展開する。 - 園児の興味・関心に基づき、遊びこめるような様々な職種の協力のもと環境を整える - 季節を感じ、生活を豊かにする行事や成長を喜び合う行事に取り組む	A A B A A	乳児クラスでは保育教諭との愛着形成を大切にし、一人一人の気持ちを受け止めながら関わる事ができた。毎日の生活の流れを同じにすることで安心感につながり、見通しを持ち意欲的に自分から行動する姿につながっている。幼児クラスでは気持ちが不安定だったり、大人との関わりを求めるこどもの姿があり一人一人の気持ちを受け止め寄り添い、安心して思いを出せるようにし、自信につなげてきた。保育室の環境はこどもが動きやすく遊びを選べる環境を作り、興味・発達に応じた玩具を整えるようにしたことで、落ち着いて遊べるようになってきた。	A	各クラス担任より日頃の取り組みを聞かせてもらい、一人一人のこどもたちにきめ細やかに関わり、成長を願う先生方の思いや、一人一人に寄り添い自尊心を高めながら保育をすすめていることがよくわかりました。環境づくりの配慮も多様で工夫されています。
保護者や地域の方と連携し、ともに子育てをする	日々の送迎時や懇談会等で子どもの良いところや成長を分かちあう。 園庭開放や子育てサロン、ほっと預かりやリフレッシュ預かり等で地域の保護者に専門性を活かした保育の提供や相談対応を行う	- 家庭環境や保護者のニーズを理解し、ともに子育てしていく視点を持ち信頼関係を築く - 保護者に教育・保育内容をドキュメンテーション等で可視化し、子どもの成長を共有する。 - 地域の関係機関や子育て支援関係者と連携、協力を図り、適切な支援を行う - 様々な子育て支援事業を行い、専門性を活かした保育の提供や相談対応を行う	A A B B	送迎時にこどもの姿を伝えたり家庭での様子を聞いたり、必要に応じて個人懇談を設定し保護者の思い、悩みに共に考えることができた。毎日の活動記録の配信は週2回は写真を入れるようにし、視覚的に保育内容が伝わるものとなった。園庭開放やほっと預かり、保育体験、子育てサロン支援等、地域の親子との交流もできた。また、いきいきサロンでは5歳児が地域の高齢の方とのふれあい交流をし、よい経験となった。	A	園での取り組みをわかりやすく発信、掲示され安心感につながっていると思います。地域として、子育てサロンでお話していただけることや、いきいきサロンでの交流をありがたく思っています。地域の方も喜んでおられました。
幼稚園、小学校、中学校と連携し、学びと育ちをつなぐ	年長クラスが中心となり、近隣の幼稚園・小中学校と交流し、つながりを深める。 こども園の育ちと小学校の学びがつながるようにしていく	- 地域の幼稚園・小中学校との交流について職員間で共有し、教育保育の質の向上を図る。また、散歩や災害訓練等で園児が小中学校を訪問する機会をつくる - 一人ひとりの園児の育ちについて、小学校と情報を共有し、円滑な接続につなげる。 - 乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し、「10の姿」を意識した教育・保育を実践する。	A B A	5歳児が津久野幼稚園、小学校(家原寺・上野芝・津久野)、近隣4園との交流を通して地域の同じ年齢の子どもたちと同じ小学校に行くこともだを知ったり、小学校がどういうところを知る機会となった。また4歳児も津久野幼稚園であそぶ機会をもつことができ良い刺激となった。災害訓練では避難先の小学校、中学校まで実際に行くことができた。担任間で意見交換し、乳幼児期に育てたい力を意識した教育・保育内容を工夫し実践してきた。	A	近隣の小学校や園と交流や連携し、円滑な接続やこどもたちの安心感につながっていると思います。小学校の教員の方々が園児の様子を見る機会を作るなど、より連携を深めていくことがこども理解の上で大切だと思います。
職員の資質向上をめざす	教育的視点を持った保育や環境について学び合い、実践にいかす	- 研修などを通して専門性や倫理性の向上に努めるとともに自己研鑽を積極的に行う - 教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して質の向上を図るとともに専門性を高める - 理念や方針、教育・保育課程や指導計画について職員同士が共通理解する - 職員同士の交流や情報交換を円滑に行い、園児の学びと育ちをつないでいく	A B A	研修で学んだことは職員間で共有し、実践したり取り入れたりし、より良い保育につなげた。また担任間で情報共有や意見交流を密にし、円滑なクラス運営をすすめるようにした。栄養士や看護師と連携した栄養指導や保健指導では、食育や健康についてこどもが意識する機会となった。	A	職員間で情報共有を密にすることで、こどもの育ちや学びに生かすことができ、保育力向上につながっていると思います。

今後の取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法	園長より
主体的に活動できる環境づくり	- 落ち着いて生活をしたり、じっくりあそびこめる室内環境を整える - 発達やこどもの姿に応じた教材・玩具を用意し、こどもが選べるようにする - 環境づくりについて職員間で学び合う	行事の取り組みや日頃の教育・保育について職員間での意見交流を密にしながらすすめてきました。環境づくりや異年齢交流、地域との交流の充実につながりました。次年度は左記の取り組みについて、より深く学び合い、実践していきたいと思っています。
しなやかな体づくり	- 体を動かすことが楽しいと思えるような活動を取り入れる - 発達に応じて支持力や敏捷性を高めるあそびに取り組む - 体づくりについて職員間で学び合う	